

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

教育部
公民館
千代川公民館

事務事業名	下妻公民館維持管理事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに		11	住み続けられるまちづくりを				

1. 事業の概要(Plan)

目的	施設の適切な維持管理により、利用者に安心安全で快適な利用を提供する				
内容	施設の維持管理、補修等の業務				
種別	自治事務(義務あり)	主体	一部委託	対象・受益者	公民館利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	利用者団体	公民館の利用団体数	目標	1,260	1,000	1,000	団体
		実績	964	1,062			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	利用者数	公民館の利用者数	目標	19,200	14,500	14,500	人
		実績	14,004	12,427			

予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 公民館費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	15,894	23,938	25,521	27,110	27,708	27,708		
事業経費	8,186	16,230	17,813	19,402	20,000	20,000		
特定財源	458	818	1,463	1,553	350	350		
従事常勤職員数	0.53	0.53	0.53	0.53	0.53	0.53		
従事非常勤職員数	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60		
概算人件費	7,708	7,708	7,708	7,708	7,708	7,708		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	集会施設として利用度は高い。
		対象の適切性	適切	対象は施設利用者になるため適正である。
		主体の妥当性	アウトソーシング済(一部)	管理の一部・設備の保守点検等は委託した。
	有効性	指標の実績	達成できなかった	コロナの感染対策による臨時休館の影響があった。
効率性	コストの削減	削減の余地なし	最小限の修繕にとどめた。	
総合評価	費用対効果	効果不十分	コロナの感染対策による臨時休館により利用者が減少した。	
	手段の妥当性	見直しの余地あり	管理の一部・設備の保守点検等は委託した。	
	事業の方針	継続	存続させるか検討中です。	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	下妻公民館は、市民文化会館と空調設備等の設備が共用しているのものが多く、老朽化による不具合の対応が課題となっている。また、令和2年度より、1階に、社会福祉協議会等の事務室として使用していますので、月曜日(休館日)の設備操作等の管理が課題と思われる。
今後の取組み	下妻公民館の今後の方針次第であるが、老朽化により適切な修繕工事が必要です。また、令和2年度より、1階は、社会福祉協議会等の事務室等として使用していますので、業務に支障がないよう維持管理に努める。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

教育部
公民館
千代川公民館

事務事業名	大宝公民館維持管理事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに		11	住み続けられるまちづくりを				

1. 事業の概要(Plan)

目的	施設の適切な維持管理により、利用者に安心安全で快適な利用を提供する。				
内容	施設の維持管理、補修等の業務				
種別	自治事務(義務あり)	主体	一部委託	対象・受益者	公民館利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	利用者団体	公民館の利用団体数	目標	1,040	800	1,000	団体
		実績	786	938			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	利用者数	公民館の利用者数	目標	13,600	11,000	14,000	人
		実績	10,472	13,488			

予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 公民館費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	10,442	10,566	9,651	11,619	11,151	11,151		
事業経費	7,201	7,325	6,410	8,378	7,910	7,910		
特定財源	112	51	56	50	50	50		
従事常勤職員数	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26		
従事非常勤職員数	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55		
概算人件費	3,241	3,241	3,241	3,241	3,241	3,241		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	集会施設として利用度は高い。
		対象の適切性	適切	体育室は、部活動でも利用している。
		主体の妥当性	アウトソーシング済(一部)	管理の一部・設備の保守点検等は委託した。
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	コロナの感染対策による臨時休館の影響があった。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	最小限の予算で運営している。
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標に近づいた。	
	手段の妥当性	見直しの余地あり	管理の一部・設備の保守点検等は委託した。	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	公民館利用者が施設を快適に利用できるように、限られた予算の範囲内で不良箇所等を随時改善し、良好な環境を維持しなければならない。
今後の取組み	建設してから35年以上が経過し、建物や設備など老朽化が進んでいるため、計画的な修繕が必要である。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	千代川公民館維持管理事業						教育部			
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館	公民館
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに		11	住み続けられるまちづくりを				千代川公民館	

1. 事業の概要(Plan)

目的	施設の適切な維持管理により、利用者に安心安全で快適な利用を提供する				
内容	施設の維持管理、補修等の業務				
種別	自治事務(義務あり)	主体	一部委託	対象・受益者	公民館利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	利用者団体	公民館の利用団体数	目標	1,350	1,000	1,000	団体
		実績	811	750			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	利用者数	公民館の利用者数	目標	28,100	27,000	27,000	人
		実績	21,985	14,639			

予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 公民館費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	20,354	22,689	16,037	16,449	16,719	16,719		
事業経費	13,635	15,970	9,318	9,730	10,000	10,000		
特定財源	1,171	194	467	400	400	400		
従事常勤職員数	0.53	0.53	0.53	0.53	0.53	0.53		
従事非常勤職員数	1.17	1.17	1.17	1.17	1.17	1.17		
概算人件費	6,719	6,719	6,719	6,719	6,719	6,719		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	集会施設として利用度は高い。
		対象の適切性	適切	市外から団体利用も多い。
		主体の妥当性	アウトソーシング済(一部)	管理の一部・設備の保守点検等は委託した。
	有効性	指標の実績	達成できなかった	コロナの感染対策による臨時休館の影響があった。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	最小限の予算で運営している。
総合評価	費用対効果	効果不十分		コロナの感染対策による臨時休館により利用者が減少した。
	手段の妥当性	見直しの余地あり		管理の一部・設備の保守点検等は委託した。
	事業の方針	継続		現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	千代川庁舎の閉庁後に、公民館内に千代川窓口センターの開設予定もあり、今後、月曜日(休館日)の設備操作等の管理が課題と思われる。
今後の取組み	竣工後35年以上が経過し、老朽化による設備等トラブル対応の増加が予想されますので、計画的な修繕工事が必要となります。また、千代川庁舎の閉庁後の敷地等の管理体制が課題の一つとなるので、関係部署との協議、連携を図る。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

教育部
公民館
千代川公民館

事務事業名	市民センター管理事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに		11	住み続けられるまちづくりを				

1. 事業の概要(Plan)

目的	施設の適正な維持管理により、利用者に安心安全で快適な利用を提供する。				
内容	施設の維持管理運営、補修等の業務				
種別	自治事務(任意)	主体	一部委託	対象・受益者	利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	利用者団体	市民センターの利用団体数	目標	1,220	600	750	団体
		実績	598	737			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	利用者数	市民センターの利用者数	目標	17,600	6,500	10,000	人
		実績	6,503	10,253			

予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	10 市民センター管理費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	10,791	14,520	11,987	17,128	12,418	12,418		
事業経費	7,583	11,312	8,779	13,920	9,210	9,210		
特定財源	13	1	23	10	10	10		
従事常勤職員数	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18		
従事非常勤職員数	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80		
概算人件費	3,208	3,208	3,208	3,208	3,208	3,208		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	集会施設として利用度は高い。
		対象の適切性	適切	対象は施設利用者になるため適切である。
		主体の妥当性	アウトソーシング済(一部)	管理の一部を市民センター運営委員会に委託しました。
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定通りのサービスを提供できた。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	削減の余地はない。
総合評価	費用対効果	効果あり		最小の経費で指標の目標に近づけた。
	手段の妥当性	見直しの余地あり		管理を市民センター運営委員会に委託をした。
	事業の方針	継続		現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	市民センター利用者が施設を快適に利用できるように、限られた予算の範囲内で不良箇所等を随時修繕し、良好な環境を維持しなければならない。
今後の取組み	4市民センターとも、全体的に老朽化が進んでいるため、屋根・浄化槽等への計画的な修繕工事が必要である。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

教育部
公民館
千代川公民館

事務事業名	公民館教室事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	1	生涯学習、公民館
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに		11	住み続けられるまちづくりを				

1. 事業の概要(Plan)

目的	市民のニーズに対応した多彩な講座を開催することで、市民同士が交流を深めるよう活動を支援する。				
内容	心豊かに生きるためのきっかけづくりとして市民が幅広く参加できるよう各種講座を開催する。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民・在勤者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	教室開設数	公民館及び地区館で開設した教室数	目標	31	32	37	教室
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	教室受講者数	公民館及び地区館の教室受講者数	目標	550	600	500	人
実績		実績	0	449			

予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 公民館費	
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額			
総事業費	10,193	6,659	8,219	9,221	9,221	9,221			
事業経費	3,882	348	1,908	2,910	2,910	2,910			
特定財源	330	0	225	250	250	250			
従事常勤職員数	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21			
従事非常勤職員数	2.05	2.05	2.05	2.05	2.05	2.05			
概算人件費	6,311	6,311	6,311	6,311	6,311	6,311			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	生涯学習の場を提供する講座として、必要性は高い。
		対象の適切性	適切	適切
		主体の妥当性	市が推進すべき	市が実施することは妥当。
	有効性	指標の実績	達成できなかった	コロナの感染対策による公民館等の臨時休館等により予定どおりに出来なかった教室があった。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低の経費である。
総合評価	費用対効果	効果あり	コロナ感染拡大による影響があったが、可能な限り教室を開催した。	
	手段の妥当性	妥当	手段は妥当である。	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	教室によっては、前年度からの継続者が多く、新規受講者が増えにくい傾向にある。また、今後も徹底した感染症対策を取りながら、教室を開催する。
今後の取組み	教室内容の一層の充実を図るとともに、受講生募集の方法を工夫し、新規の受講者の増加を目指す。